

50代・60代からの Podcast×Shorts導線 チェックリスト

—— 1本の本編から3本のShortsを作り、本編へ戻すための確認表 ——

出して終わりにしない。
あなたの発信を、会う前から安心を届ける導線に。

1. 本編チェック

- 本編に実話が入っている
- 冷や汗をかいた場面がある
- 困ったこと・焦ったこと・迷ったことが入っている
- そこから得た気づきがある
- 営業・人柄・愛への変換ができている
- 今日すぐ使える一言がある
- 本編の中にShorts化できるポイントが3つある

例：systeme.ioのDNS設定で手が止まって冷や汗をかき、そこから気づいたこと

2. Shorts3本化チェック

1本目：実話型

- 具体的な場面から始まっている（いつ・どこで・何をしていたか）
- 手が止まった瞬間・冷や汗をかいた瞬間が描かれている
- かっこよく見せず、困った・迷った・焦ったを正直に出している
- 抽象的な説明ではなく、情景が見える話になっている
- 等身大で、見た人が自分ごとにしやすい話になっている

例：「DNS設定で画面とにらめっこ。何を押しばいいかわからず、何度もやり直しました」

2本目：気づき型

- 実話から学びに変換している
- 相手・お客様の立場に置き換えている
- 営業や人柄営業につながっている
- 抽象論だけで終わっていない
- 自分ごとにしやすい表現になっている

例：お客様も、専門分野の前では同じように不安なのではないか

3本目：今日の一言型

- 見た人が今日すぐ使える一言がある
- 一言が短く覚えやすい
- 売り込みではなく安心を届ける言葉になっている
- 実際のメール・電話・商談で使える
- 使った後の相手の反応が想像できる

例：「分からないところは、一緒に整理します」

3. Shorts投稿前チェック

- 冒頭1秒で何の話か分かる
- 前置きが長くない
- 実話・冷や汗・困ったことから入っている
- 気づきに変換できている
- 今日すぐ使える一言が入っている
- 最後に本編への案内を入れている
- テロップでも本編への案内を出している
- 固定コメントに本編の説明を書いている
- 可能ならYouTube本編へつながる導線を設定している

4. 動画内CTAチェック

- 最後に「本編で詳しく話しています」と言っている
- 声だけでなくテロップにも入れている
- 「コメント欄から本編へ」と案内している
- 案内が売り込みっぽくない
- 興味がある人だけ自然に進める言葉になっている

使えるCTA例

- 「この話は、本編でゆっくり話しています」
- 「続きは固定コメントから本編で聞いてみてください」
- 「詳しい話は、YouTube本編または、Podcastでお話ししています」
- 「同じテーマを本編で深く話しています」

5. 固定コメントチェック

- Shortsごとに固定コメントを書いている
- 3本とも同じ文章にしていない
- そのShortsの続きとして自然に本編へ誘導している
- 本編で何を話しているか分かる
- リンクだけを貼って終わっていない

例：本編では、Podcast・YouTube Shortsを「会う前に安心を届ける営業設計」として話しています。このShortsでは短くお伝えしましたが、本編では実話から営業の気づきまで、もう少しゆっくり話しています。

6. 24時間後の診断チェック

- 再生回数が少ない → 冒頭1秒のフックを見直す
- 再生はあるが、本編へ流れていない → 動画内CTAと固定コメントを見直す
- 最後まで見られていない → 前置きを削り、実話から早く入る
- 登録者が増えない → シリーズ感・人柄・次も見たい理由を強める
- どの動画が伸びたか分からない → 実話型・気づき型・今日の一言型のどれが反応したか比較する

7. 次回改善メモ

今回いちばん反応が良かった型

今回弱かった型

次回、冒頭で変える一言

次回、動画内CTAで使う言葉

次回、固定コメントで強める案内

次回の本編テーマ

まとめ

Shortsは、作って終わりではありません。

Shortsは入口です。PodcastやYouTube本編は、信頼を深める場所です。固定コメントや、動画内CTAは、その2つを繋ぐ橋です。

実話 → 気づき → 今日使える一言 → 本編への案内 → 24時間後の改善

この流れを一周することで、発信はただの投稿ではなく、会う前から安心を届ける導線になります。

急がなくて大丈夫です。
待てる人が、ちゃんと選ばれ続けます。